

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1495100057
法人名	株式会社ヘルシーサービス
事業所名	ガーデンコート川崎
訪問調査日	平成 21年 8月 28日
評価確定日	平成 21年 9月 21日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1495100057		
法人名	株式会社 ヘルシーサービス		
事業所名	グループホーム ガーデンコート川崎		
所在地	神奈川県川崎市幸区下平間 357-2 (電話) 044-520-0331		
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成21年8月28日	評価確定日	平成21年9月21日

【情報提供票より】平成21年8月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 5 人, 非常勤15人, 常勤換算8.4人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	3 階建ての	1 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	73,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有(円) ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	○有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	90 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 87 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川崎セツルメント診療所・日航ビル歯科室
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<ul style="list-style-type: none"> ・JR南武線鹿島田駅から徒歩14分の商・工・住が混在する市街地にあり、併設の小規模多機能施設と施設の一部を共用している。 ・昼間は、小規模多機能の利用者と生活を共にして、歌やゲームを一緒に行なっている。入浴も利用者の好みにより、小規模多機能施設の大きな浴槽を使ったり、続きのフロアを自由に行きしている。 ・利用者の希望により協力医の往診や、24時間対応の看護師との連絡ができることが、利用者・家族に大きな安心感を与えている。 ・協力医が必要と診断した際には、家族と話し合い、ターミナルケアを行なっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価は、管理者とケアマネージャーが主任に意見を聞いて作成したが、次回からは全職員の参加を予定している。 ・家族へは、法人の広報誌に事業所欄を作ることで情報提供を計画している。 ・災害対策については、消防署の指導で防災避難訓練を実施した。
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度同様、管理者とケアマネージャーが、主任と一部職員の意見を取り入れて作成した。改善点への気づきなど、今後は、職員と話し合っ取り入れて行く予定である。
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は併設の小規模多機能施設と合同で2か月に1回開催している(直近では6月10日、8月19日)。参加者は幸区役所の担当者、地域代表の商店主、家族代表、協力医の看護師、事業所の管理者、ケアマネージャーで、事業所の現状や人事異動の報告や防災訓練などについて意見交換を行った。
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族には来所時、又、電話でケアマネージャーや主任から情報を伝えると共に、家族の意見や要望を聴取している。戸外に出る機会を増やして欲しいとの要望を日課に取り入れた。重要事項説明書に相談や要望の窓口を明記し、入居時に家族、利用者に説明し了解を得ている。また、フロア入口に掲示している。
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地理的に地域との連携は難しいが、運営推進会議に地域代表として商店主に参加してもらい、意見を聞いている。少し離れた公園に散歩や買い物に出かけたときに、挨拶を交わすなど地域の人の交流を心がけている。 ・地域の民謡や踊りのボランティアを受入れている。今後更に力を入れていく予定である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・法人の理念とは別に、事業所独自で開所時に作成した理念、「その人らしく生きる姿を温かな心と確かな専門性をもって支え続けます」、「地域社会の中で人と人とのふれあいを大切にします」など4項目を、フロア入口に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・月1回の拠点会議や毎日の引継時のミーティングで理念を確認しあい、その実現に努力している。 ・利用者が地域の中に馴染めるよう、散歩時、買い物時に近隣の方との触合い、理念の実践に努めている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・近隣に住民が住まいしていないため、地域との付き合いは難しいが、公園への散歩時や買い物の折、挨拶を交わすなど地域の人と触合うよう努めている。 ・自治会が無いため加入していないが、地域のフラダンスや舞踊などのボランティアに来てもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価は、ケアマネージャーと各フロアの主任やスタッフの意見をとり入れて管理者が取りまとめた。 ・自己評価の結果を職員に伝え、課題の改善に向けて取り組む予定である。	○	職員全員が自己評価に取り組み、改善点を見つけ、評価結果について話し合い、サービスの向上に活用されることが望まれます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議は2か月に1回、直近では6月10日、8月19日に併設の小規模多機能施設と合同で開催している。 ・メンバーは家族代表、幸区役所担当職員、地域の商店主、医療機関看護師及び事業所の管理者、ケアマネージャーが出席し、現状や人事異動の報告の後、防災訓練について意見を交換した。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・区の担当者が出席している運営推進会議で相談している他、管理者が、時折り市役所に出向いて情報を収集しサービスの向上に役立っている。 ・担当者が、幸区のケアマネージャー会議に出席して、意見交換を行なっている。 		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・頻繁に訪れる家族にはその都度、ケアマネージャーや主任が利用者の生活状況を説明している。訪問が少ない家族には、毎月の集金時に暮らしぶりを一言記載している。 ・家族の来訪時に、金銭出納帳を見せ領収書を渡し、又、入金時には預かり証を発行している。 ・本社発行の広報紙に、事業所コーナーを設ける予定である。 		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情相談窓口は、重要事項説明書に明記し、家族に説明している。又、フロア入口にも掲示している。 ・家族の来訪時に意見や相談がしやすいように、事務所で対応している。外出の機会を増やして欲しいとの要望に、日課を見直して改善した。 		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の異動には、引継ぎの時間を十分取り、サービスの質が落ちないように対応している。 ・新任者には、日勤5回、夜勤2回をベテラン職員との2人体制で勤務し、利用者との馴染みやすい関係作りに努めている。 		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新人研修は、本社で2か月ごとに1年間行っている。 ・事業所では、月ごとの研修テーマ決め年間計画を作成し実行している。又、毎月の拠点会議では、そのときのテーマに応じた職員研修を実施している。 		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内の他事業所の職員との交流研修を行なっている。 ・以前は近隣のグループホームと交流があったが現在は行っていない。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・職員のサービスの質の向上のために、近隣および市内の同業者との交流や勉強会への積極的な参加が望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	<ul style="list-style-type: none"> 入居申込書で利用者の状況を把握し、家族、本人と面談して要望や不安を聴き取り、安心して入居してもらえるように心がけている。入居当初の不安感を少なくするため、家族の頻回の訪問の協力をお願いしている。 現在、ほとんどの利用者が併設の小規模多機能からの入居のため、すぐグループホームに馴染んでもらえている。 		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> 職員は、利用者の経験や意欲を大切に汲み取り、洗濯物たたみや食事の後片付けなど、得意なことを一緒にして、共に支えあう関係を築いている。 子育ての話や昔の話を聞き、教えてもらうことも多く、職員も感謝している。 		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> 入居前にアセスメントで、利用者の生活歴や要望を把握し、入居後は職員が利用者との会話から、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。 意向の把握が難しい人には「何をしようか」「何をしたい」のかを問掛け、本人の意思を汲取ること努めている。 		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントを基に、管理者、ケアマネージャー、主任が話し合い、利用者や家族の意向、要望を反映した介護計画を作成している。介護計画に基づき、週間計画、日課計画を作成している。 介護計画はし、事務所と各フロアに置いていつでも見られるようにしている。 		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> 介護計画は、サービス担当者会議で長期は6か月、短期は3か月で見直しをしている。見直しに当たっては、小規模多機能の看護師からアドバイスを受けている。 利用者の状況に応じてその都度見直すとともに、家族から意見を聞いて介護計画に反映している。 		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・昼間は、併設の小規模多機能施設の利用者と一緒に生活しゲーム、歌などを楽しんだり、送迎車に同乗させてもらい、気分転換と個別の語らいの場を提供し支援している。 ・協力医への診療時、利用者の送迎、薬の手配を行なっている。 ・訪問理美容を受入れている。 		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのかかりつけ医への受診が基本であるが、本人、家族からの希望がない場合は、協力医の診療を受けている。 ・2週間に1度往診があり、事業所の看護師が立会っている。また、カルテを事業所内と、協力医、後方支援病院の3か所に保管し、いつでも対応できるようにしている。 ・協力医の看護師が、24時間対応している。 		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<ul style="list-style-type: none"> ・医師が、ターミナルケアが必要と判断した場合、家族と話し合い、同意書を貰って対応している。 ・協力医と看護師が連携して、看取りを行なっている。現在、ターミナルケアを行っている。 		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の拠点会議で、個人情報保護マニュアルを職員に説明し、利用者の自尊心やプライバシーに配慮したケアに努めている。 ・新入職員には、同行時にベテラン職員が教育している。 ・職員の不適切な言動や行為には、管理者、主任、ケアマネージャが面談して、状況を訊ねて注意をしている。 		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的にはサービス計画の日課スケジュールに沿っているが、急な買物などの要望がある場合は、時間の融通がきく事務所職員(管理者、主任、ケアマネージャ)が対応している。 ・利用者の状況、希望を尊重して、起床、朝食の時間を個別に対応している。 		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・昨年10月、食材を外部調達に切り替えたが、メニュー、量、カロリーは、利用者の状況と希望に合わせて改善を進めている。 ・職員は利用者と同じ食事を、一緒に食べている。 ・利用者はそれぞれ自分のできる範囲で、食卓拭き、食事の後片付け、食器洗いなどを手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・週2回以上入浴しており、柚子湯を立てるなどの工夫をしている。 ・希望者は小規模多機能の大きな浴槽に入ることもできる。 ・気の合った利用者は一緒に入浴を楽しんでいる。 ・異性職員による入浴介助が難しい利用者へは、同性職員が対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・小規模多機能の利用者と一緒に、音楽療法専攻職員による指導で、歌やカラオケを楽しんでいる。 ・ベランダで外気浴をしながら喫茶をしている。 ・利用者の得意分野を活かして、洗濯もの畳み、新聞畳み、掃除を手伝っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・仏壇の供え物・お花、おやつを買いに、近所の商店へ出かけている。 ・外出の機会を増やして欲しいとの家族の希望を受けて、8月から午後の散歩を日課に組み込んでいる。 ・希望者を小規模多機能利用者の送迎車に同乗させる機会を創っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・事務所が3階のため、安全上やむなく1階玄関を施錠している。非常口は、煙を感知すれば自動解錠される。 ・利用者は、職員見守りのもと2階、3階のフロア間はエレベータホールや小規模多機能室に自由に入出入りしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・他県のグループホーム火災事故を契機に、消防署からの呼びかけで、7月に夜間火災を想定した訓練を実施した。 ・事業所内から裸火を発生しないよう、IHヒーターを使用し、喫煙は遠慮してもらっている。 ・法人本部から近いうちに、1～2食分の非常食を含む防災用品が届く予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎食時、食事と水分摂取量を確認し、不足する利用者には言葉を掛けて支援している。摂取量が少ない場合は、補食、点滴あるいは通院の措置を取っている。 ・メニューの栄養バランスチェックは、食材会社の栄養士が行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・感染症対策として、毎日2回、キッチンファイターで、トイレ、手すり、床を拭いている。異臭対策にもなっている。 ・共用空間の壁面に飾りは多くないが、スッキリと清潔な状態を保っている。 ・食事や作業用のテーブル、ソファ、テレビを置き、寛ぎの場となっている。	○	・事業所内には清潔感が有りますが、更に共用空間に季節を感じさせる花や、壁面に絵や写真を飾るなどの工夫が期待されます。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・エアコンと照明器具以外は、利用者の好みのベッドやタンス、仏壇、テレビや冷蔵庫を持ち込んでいる。 ・利用者の生活感を継続させるため、馴染みのものを利用するように伝え、極力新品を持ち込まないように助言をしている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ガーデンコート 川崎
(ユニット名)	2階 ユニット
所在地 (県・市町村名)	神奈川県川崎市幸区下平間 357-2
記入者名 (管理者)	難波 一修
記入日	平成 21 年 8 月 11 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>当施設では基本理念を掲げ、地域に根付いたサービス提供を心がけています。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>ミーティングや会議で理念の共有化を図っています。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>医療や買物等地域と密接した関係作りを行い、地域とのふれあいを大切に出来るように努めています。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>頻度はそう多くはありませんが、近隣の児童が来たりして気軽に来れるようにしています。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域のボランティアの方に来て頂いたりして、昭和時代の歌や踊り等披露して下さっています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前に初回面談をご家族、ご本人様と行います。また、初回面談後、入居契約時にも不安な点や疑問点に答えられるように努めている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居前に初回面談をご家族、ご本人様と行います。また、初回面談後、入居契約時にも不安な点や疑問点に答えられるように努めている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>電話連絡や面会に来られた際に近況報告しています。</p>	<p>○ 今後、広報誌等文面で提示できるように検討中。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>市役所・国保連を窓口としています。苦情・相談については内部窓口を契約書に記載し、外部窓口は掲示しています。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議や日々のミーティングまたは個別相談にて意見交換や面談を設け、反映させています。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の活動時間に合わせた、生活時間を設定しシフトを組んでいます。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>突然の異動がないよう本部と連携を図っています。また異動の際には引継期間以外にも相談や様々なやり取りを行い、質が落ちないように注意しています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新卒に関しては、本部主催の研修会に参加させてレベルの向上に努めています。当施設に於いても月に1度勉強会を設けて学ぶ機会を設けています。</p>	<p>○</p> <p>日々の業務の中で、指示や指導を行えるような人材育成を今後行っていきたいと思っています。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>相互訪問を行い、情報交換を行っています。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スタッフ間で業務上疑問が生じた場合は、随時管理者やケアマネージャーが相談に応じています。また、全体的な問題が生じた場合は営業所内での会議で話し合いを行っています。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>随時管理者とスタッフで会話する時間を設け、管理者からアドバイスをしたり逆にスタッフから問題提起を受けたりと相互でコミュニケーションを図るよう心がけています。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の初回面談を通じて本人のニーズを聞いています。また、入居後、環境が変わったのダメージを最小限に抑えるよう、積極的にコミュニケーションを図り孤独感の無いよう努めています。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回面談時や利用契約時に不安な点等を聞く機会を設けております。それをもとに、ケアプランに落とし込んでいます。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適時、本人を含めカンファレンスを実施して、適切なアドバイスを行ったり、他のサービスの利用も検討し対応を行っています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居後しばらくは出来る限りご家族様には足を運んで頂くようお願いし、リロケーションダメージを防ぐように対応しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフの導線の中で会話の時間を設けています。また、会話の中で出た意見を大切に、ユニット内や事務所に報告し、ご本人様がより快適にお過ごしになれるように工夫しなごみの関係を構築できるよう対応しています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家庭的なグループホームを共有し、ご家族様からのご指導を頂いたりして、入居者本人が穏やかに快適に過ごして頂けるようにコミュニケーションを図っています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	スタッフは面会等で近況報告を行うように徹底し、よりよい関係の構築が出来るようサポートしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊は原則自由となっており、(事前連絡は必要)ご家族様や入居前に馴染みのあった方との関係が途切れないよう、ご家族様にも協力して頂き支援しています。正月やお盆といった際には、面会時や手紙を郵送し外泊されるかの有無を聞いています。年末年始にかけ半分以上の方がご自宅やご家族宅へ外泊されています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居初期の段階でご家族様に面会に来て頂いたり、また、他の入居者と関わりが持てるように余暇活動を行い、他の入居者の方ともより良い関係が構築できるように努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院が長期化し、当施設を退去した場合、お見舞いに行ったりしています。また、他施設への入所により退去になった場合は情報提供を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から出る希望や意向をヒアリングし、管理者や計画作成担当を中心に課題分析し、出来るだけご本人が快適に過ごして頂けるよう検討しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面談や他の福祉サービスをご利用されていた方は担当の相談員の方やケアマネージャーから留意点を聴取しています。また、初回面談を通じて生活歴や趣味等本人から聴取し、スタッフに落とし込み情報の共有を図っています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常の業務や申し送りや記録等で状況の把握を行い、変化がある場合にはご家族様にご報告しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のモニタリングを行い課題分析に取り組んでいます。随時、ご家族様が面会に来た時にご相談、ご提案させて頂きケアプランに落とし込んでいます。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のモニタリングを行い課題分析に取り組んでいます。また、モニタリング以外にも状況の変化に対応し現状に即したケアプランの作成を行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別の記録から本人の問題点等を抽出し、介護職員と計画作成の情報の共有を行いケアプランの見直しを行っています。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>唄や踊りといったボランティアが来園された場合は、併設の小規模多機能ステーションのご利用者と同様で楽しませたりしています。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>徘徊等で施設から出てしまった場合を想定し、近隣の派出所に相談に行ってます。また、消防訓練等でも消防署との連携が必要になって来るため、合同で避難訓練を実施しました。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>医療面でのサポートが必要になった場合は、往診医と連携し外部との連携を調整しています。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>現状、当施設と地域包括支援センターとの協働といった部分では機能していません。</p>		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>往診をとっている形で当事業所の看護師を通じて医師に相談しています。また、状態が悪くなった場合にはご家族交え往診の立会いをお願いしております。また、医師からご家族様へ連絡や医療連携を図る上で紹介状を書いて頂き支援しています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>往診をとっている形で当事業所の看護師を通じて医師に相談している。また、状態が悪くなった場合にはご家族交え往診の立会いをお願いしています。</p>		
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>状態の変化があった場合には、当事業所の看護師に相談できるような体制をとっています。</p>		
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>往診の医師の協力のもと、後方支援病院との連携を行っています。また、救急車等による入院となった場合には、管理者、ケアマネージャー、看護師が入院先の病院と情報交換を行っています。</p>		
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>医師を交え、管理者、介護支援専門員、看護師、介護職員でカンファレンスを実施。都度、状況に変化が生じた場合には、往診等で相談しています。</p>		
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>医師を交え、ご家族、管理者、介護支援専門員、看護師、介護職員でカンファレンスを実施。都度、状況に変化が生じた場合には、往診等で相談しています。</p>		
<p>49</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>備品1つにしてもなじみ(愛用)の物を持参するようアナウンスを行っています。また、ご家族様にも積極的に面会に来て頂き孤独感のないような支援を行っています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	弊社のマニュアルを通じて、声かけ等のマナーの部分説明している。施錠できる場所に個人情報の書類を保管しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	スタッフには傾聴を心がけるよう徹底し、ニーズの把握を行っている。また、役割を持てるように側面からのサポート行っています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランの日課計画に沿った形で日々業務を行っていますが、例えば突然の買物等の要望があった際には、間接要員で補う形をとっています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	今のところ、理・美容については、当施設内に来て頂いてカットやパーマを行っています。本人の意向に合わせた形で床屋にお願いしています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外部委託に切り替え、管理栄養士の作成したメニューに切り替えています。片付けや準備は手伝いが出来る方はお手伝いしています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	昨年より食事は外部委託の為、ある程度メニューが固定されています。それ以外では、病的にストップがかかっている方を除いては、買物(代行を含め)をし、楽しみの一つとなっています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	現状、尿意や便意を訴えが出来る方が大半なので都度声かけや本人の訴えに合わせて快適な排泄が出来るよう支援しています。また、下肢の筋力低下等でトイレに行くのが困難気味になった場合はPトイレの導入を行っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居前後に本人のニーズを聞いて対応しています。入浴を好まない方も最低週2回以上の入浴を行うようアナウンスして、声かけや誘導し入浴をして頂いています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転傾向にある方はスタッフで連携し夜休んで頂くよう日中の活動を多くしてます。概ね、ご自宅にいた時の習慣の就寝時間で休まれている方が大半です。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	会話やカラオケ、ホーム内喫茶等、個別・集団の余暇活動を行ったり、日々の食事の買物をお手伝いして頂いたりして極力ストレスを溜めないよう工夫しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状は、金銭紛失の訴えが認知症の特性上見られるので、入居日にご家族様に諸事情をお話し、金銭を持参しないようお願いしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩のニーズが多いので外気浴や動物や園児に触れ合ったりしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出の要望がある場合には都度ご家族様に連絡し、日程調整を行って頂き外出や外泊を依頼しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人のニーズに応じ、電話連絡や面会に来て頂いたりしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	比較的小入居者様のご家族様や知人の方の面会が多いので、ゆっくりして頂けるように場所の提供をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	対象となる入居者がいない為身体拘束は行っていません。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険回避の為、自動ドアも暗証番号付きのカギを閉めて対応しています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は定期的な巡回を行い、また日中も食堂のスペースにてだんらん場としてスタッフが見守りを行い安全に配慮することを心がけています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居前に持参品のチェックを行っています。刃物や爪きりニッパー等は事務所保管し、入居者各々のレベルを考慮し、使用する際はスタッフが見守る形式をとっています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	拠点会議にて防災訓練の実施や防火設備などの説明を行っています。特に夜勤に携わるスタッフは入社時のオリエンテーション時に説明を行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全入居者の方の食事・水分摂取量の表を作成してチェックしています。また、水分補給も季節やその方に応じた水分の提供し、脱水症状にならないように工夫しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルや国や自治体からの文章を用いて全スタッフに啓蒙しています。また、本部に感染症委員会というものを設置しており、連携を図っています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具等の消毒は毎日行っています。食材は外部委託のため、毎日配送する形式を取っていますので、適切な方法で保管しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	インターフォンが鳴るとモニターに表示されるので、不審者の確認が出来るようにしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の余暇活動にて季節感の出るものを装飾したり工作したりしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小規模多機能の方との交流を楽しまれている方もいますので、そういった方は交流をし、また、入口のソファの場所で談話をしたりして孤独感の無いように見守っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみのものを持参して頂くよう工夫しています。入居後レベルが下がった場合には福祉用具導入の提案を行っています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調節はその都度入居者に確認し調整を行っています。居室自体は24時間換気がついています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの個室の空間があり、また廊下やトイレ手すりが設置してあり歩行困難な方でも対応出来るよう工夫しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者個々のレベルに応じ出来る能力を生かせるような働きかけを行っています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外気浴を兼ねベランダに出て小動物鑑賞を行っています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・開設からちょうど3年が経過し、スタッフも固定されてきて、更なる育成が今後の課題となります。毎年、新卒の登用もあり、安定したサービスを行えるように毎月の勉強会日々の指導でサービスの向上を図っています。

・併設の小規模多機能型居宅介護もあることから、グループホームの方と小規模多機能の方との融合でレクリエーションの充実を図っています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ガーデンコート 川崎
(ユニット名)	3階 ユニット
所在地 (県・市町村名)	神奈川県川崎市幸区下平間 357-2
記入者名 (管理者)	難波 一修
記入日	平成 21 年 8 月 11 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当施設では基本理念を掲げ、地域に根付いたサービス提供を心がけています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや会議で理念の共有化を図っています。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	医療や買物等地域と密接した関係作りを行い、地域とのふれあいを大切に出来るように努めています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	頻度はそう多くはありませんが、近隣の児童が来たりして気軽に来れるようにしています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のボランティアの方に来て頂いたりして、昭和時代の歌や踊り等披露して下さっています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前に初回面談をご家族、ご本人様と行います。また、初回面談後、入居契約時にも不安な点や疑問点に答えられるように努めている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居前に初回面談をご家族、ご本人様と行います。また、初回面談後、入居契約時にも不安な点や疑問点に答えられるように努めている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>電話連絡や面会に来られた際に近況報告しています。</p>	<p>○ 今後、広報誌等文面で提示できるように検討中。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>市役所・国保連を窓口としています。苦情・相談については内部窓口を契約書に記載し、外部窓口は掲示しています。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議や日々のミーティングまたは個別相談にて意見交換や面談を設け、反映させています。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の活動時間に合わせた、生活時間を設定しシフトを組んでいます。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>突然の異動がないよう本部と連携を図っています。また異動の際には引継期間以外にも相談や様々なやり取りを行い、質が落ちないように注意しています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新卒に関しては、本部主催の研修会に参加させてレベルの向上に努めています。当施設に於いても月に1度勉強会を設けて学ぶ機会を設けています。</p>	○	<p>日々の業務の中で、指示や指導を行えるような人材育成を今後行っていきたいと思っています。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>相互訪問を行い、情報交換を行っています。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スタッフ間で業務上疑問が生じた場合は、随時管理者やケアマネージャーが相談に応じています。また、全体的な問題が生じた場合は営業所内での会議で話し合いを行っています。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>随時管理者とスタッフで会話する時間を設け、管理者からアドバイスをしたり逆にスタッフから問題提起を受けたりと相互でコミュニケーションを図るよう心がけています。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の初回面談を通じて本人のニーズを聞いています。また、入居後、環境が変わってのダメージを最小限に抑えるよう、積極的にコミュニケーションを図り孤独感の無いよう努めています。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回面談時や利用契約時に不安な点等を聞く機会を設けております。それをもとに、ケアプランに落とし込んでいます。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適時、本人を含めカンファレンスを実施して、適切なアドバイスを行ったり、他のサービスの利用も検討し対応を行ってま す。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居後しばらくは出来る限りご家族様には足を運んで頂くようお願いし、リロケーションダメージを防ぐように対応して います。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフの導線の中で会話の時間を設けています。また、会話の中で出た意見を大切に、ユニット内や事務所に報告し、ご本人様がより快適にお過ごしになれるように工夫しな じみの関係を構築できるよう対応しています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家庭的なグループホームを共有し、ご家族様からのご指導を頂いたりして、入居者本人が穏やかに快適に過ごして頂けるようにコミュニケーションを図っています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	スタッフは面会等で近況報告を行うように徹底し、よりよい関係の構築が出来るようサポートしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊は原則自由となっており、(事前連絡は必要)ご家族様や入居前に馴染みのあった方との関係が途切れないよう、ご家族様にも協力して頂き支援しています。正月やお盆といった際には、面会時や手紙を郵送し外泊されるかの有無を聞いています。年末年始にかけ半分以上の方がご自宅やご家族宅へ外泊されています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居初期の段階でご家族様に面会に来て頂いたり、また、他の入居者と関わりが持てるように余暇活動を行い、他の入居者の方ともより良い関係が構築できるように努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院が長期化し、当施設を退去した場合、お見舞いに行ったりしています。また、他施設への入所により退去になった場合は情報提供を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から出る希望や意向をヒアリングし、管理者や計画作成担当を中心に課題分析し、出来るだけご本人が快適に過ごして頂けるよう検討しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面談や他の福祉サービスをご利用されていた方は担当の相談員の方やケアマネージャーから留意点を聴取しています。また、初回面談を通じて生活歴や趣味等本人から聴取し、スタッフに落とし込み情報の共有を図っています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常の業務や申し送りや記録等で状況の把握を行い、変化がある場合にはご家族様にご報告しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のモニタリングを行い課題分析に取り組んでいます。随時、ご家族様が面会に来た時にご相談、ご提案させて頂きケアプランに落とし込んでいます。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のモニタリングを行い課題分析に取り組んでいます。また、モニタリング以外にも状況の変化に対応し現状に即したケアプランの作成を行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別の記録から本人の問題点等を抽出し、介護職員と計画作成の情報の共有を行いケアプランの見直しを行っています。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>唄や踊りといったボランティアが来園された場合は、併設の小規模多機能ステーションのご利用者と同様で楽しませたりしています。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>徘徊等で施設から出てしまった場合を想定し、近隣の派出所に相談に行ってます。また、消防訓練等でも消防署との連携が必要になって来るため、合同で避難訓練を実施しました。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>医療面でのサポートが必要になった場合は、往診医と連携し外部との連携を調整しています。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>現状、当施設と地域包括支援センターとの協働といった部分では機能していません。</p>		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>往診をとっている形で当事業所の看護師を通じて医師に相談しています。また、状態が悪くなった場合にはご家族交え往診の立会いをお願いしております。また、医師からご家族様へ連絡や医療連携を図る上で紹介状を書いて頂き支援しています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	弊社のマニュアルを通じて、声かけ等のマナーの部分説明している。施錠できる場所に個人情報の書類を保管しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	スタッフには傾聴を心がけるよう徹底し、ニーズの把握を行っている。また、役割を持てるように側面からのサポート行っています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランの日課計画に沿った形で日々業務を行っていますが、例えば突然の買物等の要望があった際には、間接要員で補う形をとっています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	今のところ、理・美容については、当施設内に来て頂いてカットやパーマを行っています。本人の意向に合わせた形で床屋にお願いしています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外部委託に切り替え、管理栄養士の作成したメニューに切り替えています。片付けや準備は手伝いが出来る方はお手伝いしています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	昨年より食事は外部委託の為、ある程度メニューが固定されています。それ以外では、病的にストップがかかっている方を除いては、買物(代行を含め)をし、楽しみの一つとなっています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>現状、尿意や便意を訴えが出来る方が大半なので都度声かけや本人の訴えに合わせて快適な排泄が出来るよう支援しています。また、下肢の筋力低下等でトイレに行くのが困難気味になった場合はPトイレの導入を行っています。</p>	
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入居前後に本人のニーズを聞いて対応しています。入浴を好まない方も最低週2回以上の入浴を行うようアナウンスして、声かけや誘導し入浴をして頂いています。</p>	
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>昼夜逆転傾向にある方はスタッフで連携し夜休んで頂くよう日中の活動を多くしてます。概ね、ご自宅にいた時の習慣の就寝時間で休まれている方が大半です。</p>	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>会話やカラオケ、ホーム内喫茶等、個別・集団の余暇活動を行ったり、日々の食事の買物をお手伝いして頂いたりして極力ストレスを溜めないよう工夫しています。</p>	
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現状は、金銭紛失の訴えが認知症の特性上見られるので、入居日にご家族様に諸事情をお話し、金銭を持参しないようお願いしています。</p>	
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩のニーズが多いので外気浴や動物や園児に触れ合ったりしている。</p>	
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>外出の要望がある場合には都度ご家族様に連絡し、日程調整を行って頂き外出や外泊を依頼しています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人のニーズに応じ、電話連絡や面会に来て頂いたりしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	比較的ご入居者様のご家族様や知人の方の面会が多いので、ゆっくりして頂けるように場所の提供をしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	対象となる入居者がいない為身体拘束は行っていません。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険回避の為、自動ドアも暗証番号付きのカギを閉めて対応しています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は定期的な巡回を行い、また日中も食堂のスペースにてだんらんの場としてスタッフが見守りを行い安全に配慮することを心がけています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居前に持参品のチェックを行っています。刃物や爪きりニッパー等は事務所保管し、入居者各々のレベルを考慮し、使用する際はスタッフが見守る形式をとっています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	拠点会議にて防災訓練の実施や防火設備などの説明を行っています。特に夜勤に携わるスタッフは入社時のオリエンテーション時に説明を行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全入居者の方の食事・水分摂取量の表を作成してチェックしています。また、水分補給も季節やその方に応じた水分の提供し、脱水症状にならないように工夫しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルや国や自治体からの文章を用いて全スタッフに啓蒙しています。また、本部に感染症委員会というものを設置しており、連携を図っています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具等の消毒は毎日行っています。食材は外部委託のため、毎日配送する形式を取っていますので、適切な方法で保管しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	インターフォンが鳴るとモニターに表示されるので、不審者の確認が出来るようにしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の余暇活動にて季節感の出るものを装飾したり工作したりしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人でソファーでくつろいだり、ユニット内だけではなくユニットが違う方で気の合う方同士談話出来るように工夫して対応しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみのものを持参して頂くよう工夫しています。入居後レベルが下がった場合には福祉用具導入の提案を行っています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調節はその都度入居者に確認し調整を行っています。居室自体は24時間換気がついています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの個室の空間があり、また廊下やトイレ手すりが設置してあり歩行困難な方でも対応出来るよう工夫しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者個々のレベルに応じ出来る能力を生かせるような働きかけを行っています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外気浴を兼ねベランダに出て小動物鑑賞を行っています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・開設からちょうど3年が経過し、スタッフも固定されてきて、更なる育成が今後の課題となります。毎年、新卒の登用もあり、安定したサービスを行えるように毎月の勉強会日々の指導でサービスの向上を図っています。

・併設の小規模多機能型居宅介護もあることから、グループホームの方と小規模多機能の方との融合でレクリエーションの充実を図っています。